

会 報

公認会計士三田会

目 次

1. 公認会計士三田会会報発刊に寄せて……………慶応義塾長 石川 忠雄…………… 1
2. 公認会計士三田会のこと……………中 村 忠…………… 2
3. “公認会計士三田会”の発足を祝して……………中 瀬 宏 通…………… 3
4. 公認会計士三田会発足に思う……………西 野 清…………… 3
5. 創立総会会場における各位のご挨拶から
 - (1) 御 接 拶……………本 間 満…………… 5
 - (2) 昔 が たり……………乗 田 菊五郎…………… 5
 - (3) ごあいさつ……………藤 井 博…………… 6
 - (4) “ ”……………森 重 栄…………… 7
 - (5) 創立総会に出席して……………佐 竹 正 幸…………… 7
 - (6) 三田会の設立に思う……………落 合 孝 彰…………… 8
6. 発会式会場記……………宇 野 皓 三…………… 8
7. 公認会計士三田会の誕生 — 三田の仲間 —……………村 山 徳五郎…………… 9
8. お 知 ら せ………………………… 10

公認会計士三田会会報発刊に寄せて

慶応義塾長 石川 忠雄

昭和52年9月12日に公認会計士三田会が発足し会報第1号を発行するに当って、巻頭言を申し上げる機会を得たことは塾長として深く喜びとするところです。

慶応義塾百二十年の歴史と伝統の中で、六百有余の各三田会が特色ある活動をしてありますが、このたび昭和23年に公認会計士制度が発足して以来、活躍されていた皆様が公認会計士三田会を結成され会報を発刊し、職業会計人としてお互いに

切磋琢磨し精力的に活躍される環境が出来たことは、国際的にも、社会的にも、転換と模索の時代に、極めて意義深いものであり、その発展を期待しております。

あの明治という、大きな歴史の転換期に、福澤先生が時代の先導者を世に送り出したようにこの転換期こそ慶応義塾出身の公認会計士として今後益々その真価を発揮して斯界の発展に寄与されることを衷心より祈念してやみません。

昭和53年1月吉日

公認会計士三田会のこと

昭和18年経済
中村 忠

昭和52年9月12日、月曜日、東京日比谷の日本生命ビルにて、公認会計士三田会が誕生しました。

昭和24年、シャープ勧告により日本に公認会計士制度が導入されて以来、満28年が経過しました。現在日本公認会計士協会に属する公認会計士が5,400名、会計士補が1,700名、合計7,100名です。そのうち本塾出身者は公認会計士約270名、会計士補約230名、計500名とされており、特にここ数年の塾関係者は他校のそれを抜き出て合格しております。

曾って、故三辺金蔵先生を中心とした三田会計学会がありました。公認会計士、監査役、学識経験者による良心的な学術研究を目的とした集まりでした。

その当時は公認会計士の稀少性という条件の下に、公認会計士試験に合格すれば、明日からの生活の期待の出来る時代でした。

今日では、三次試験を合格しても、開業するには仲々大変なことですし、また二次試験に合格しても、会計事務所に入所するに、大変骨の折れる時代となりました。

今年の二次試験の合格者は450名。そのうち就職可能な数は200名と言われ、前年の合格者が未だ就職出来ない状況にあります。

まごまごしていると、業務補助が出来ず、三次試験の受験資格がとれないこととなります。開業するにも骨が折れる、またどうしたら開業出来るか相談する所もない。就職も出来ない。このような状態から少しでも塾出身者に道を開きたいと、西野清君が心配して、公認会計士三田会の設立を主唱し始めました。幸にして、中瀬宏通君、村山徳五郎君（中央会計事務所）、宇野皓三君（朝日会計社）が強力にバックアップされ、資料を持ち

寄り、事務所を提供され、公認会計士三田会が誕生した次第であります。

手初めの事業として10月7日に、二次試験合格者に集まってもらい、早速就職のための懇談会を開きました。当日、乗田菊五郎先輩、西谷誠一君（サンワ）、中嶋敬雄君（新和）、小林俊一君（サンワ）、それに西野清君と私が加わり、更に戸谷明氏（中央）のお手を頼し、会場を提供して頂き、①業界の状況説明、②三次試験への道程、③就職相談について22名の新合格者と膝をつき合せて懇談致しました。

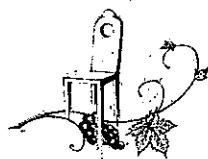
その場で、面接の約束などあり、数日後には早速就職が定まった旨、数名の方から連絡を頂戴しました。

申し添えますが、当会の事務局は霞が関ビル32F、中央会計事務所気付（TEL 581-6281）。同事務所の事務局長戸谷明さんが当分の間お世話して下さいになりました。中瀬・村山両君の御好意には心から感謝する次第です。

更に三田会の世話人に、西野清君、西谷誠一君（サンワ）、中嶋敬雄君（新和）、森重栄君（第一）中村寛治君。代表世話人に村山徳五郎君（中央）、宇野皓三君（朝日）、と私（日東）が御指名を受けました。

第1回の総会にて約270名の入会申込がありました。とにかく御連絡の節は上記世話人の方か私ども若しくは戸谷さんまで、御連絡下さいますよう。必要に応じて早速手を致します。

目下、会員名簿の作成、会報など準備しております。また来年の1月中旬には、総会を交詢社で行いたいと思っております。



“公認会計士三田会” の発足を祝して

昭和22年経済
中瀬宏通

10年ほど前に、今回の創立総会と同様の趣旨の会合が持たれたが、残念ながらその後あまり発展を見ないまま、今日に至ってしまった。いま新たに、正式の職業会計人団体としての三田会が発足したことは、会計士業界に籍を置く塾員の一人として、誠に喜びに耐えない。ここに至るまでの間、多くの努力を積重ねて下さった諸先生に対し、深く感謝する次第である。

私が公認会計士として登録をした昭和26年当時の慶応出身者は、その数は微々たるものであって到底その後の発展は望めないのではないかと、危惧の念を抱いた。しかし、これは杞憂に終り、最近では、出身校別合格者数では常にトップまたはそれに近い位置を占めているようで、誠に喜ばしい限りである。

私どもの職業自体が、横の連繫をあまり必要としない故為か、あるいは独立自尊の精神が逆に禍してか、従来、三田出身者同志の連帯感は一向に盛上らず、身近かな者はともかくとして、多くの人たちは同窓であることすら知らないで過してきた。

公認会計士もいま一種の過渡期を迎えて、内に団結し、外に対処しなければならぬ時機となっている。この時に当り、一つの重要なかなめとなるべき三田会が発足したことは、業界のためにも誠に喜ばしいことであり、今後ますます会員の増加を図るとともに、相互の親睦を深め、外に向っては一致団結した姿勢をとるべく、さらに一段の発展を期待したい。

公認会計士三田会 発足に想う

昭和22年経済
西野清

I.

昭和23年4月6日証券取引法が制定され、同年7月6日に公認会計士法が公布されてから1年余り経過した昭和24年10月22日に、日本公認会計士協会が生れて既に30年近くの年月がたった。

この間公認会計士試験に合格した登録可能者数は、昭和52年9月30日現在で、協会の調査によれば公認会計士5,539名、会計士補3,062名。

その内訳は、

- | | |
|--------------|------------------|
| (1) 3次試験合格者 | 3,828名 |
| (2) 特別試験合格者 | 1,042名 |
| (3) 特例試験合格者 | 1,204名 |
| 計 公認会計士有資格者 | 6,074名 |
| | (登録者で死去した人 535名) |
| (4) 2次試験合格者 | 6,494名 |
| (5) 公認会計士登録者 | 5,381名 |
| | (未登録者 148名以内) |
| (6) 会計士補登録者 | 1,896名 |
| | (未登録者 1,166名以内) |

なお、登録者は7,277名、未登録者は1,314名以内である。

昭和28年4月に社団法人日本公認会計士協会が創立されたが、その時の会員数は769名(内準会員13名)しかおらず、昭和41年11月に協会が特殊法人となった頃は、7月の時点では正会員2,057名、客員60名、準会員620名合計2,737名の登録者であった。

現時点から顧みると社団法人になった時は現在の約10分の1程度しかおらず、また特殊法人になった時は現在の3分の1程度の会員数しかおらなかった事になるが、この10年間余の間に全体で5,000名近くの会員が増加した。公認会計士試験

合格者について慶応義塾出身者の現状は、公認会計士約270名、会計士補約220名前後になり、合計で五百名近くの人々が登録されているのが現状である。

更に最近の公認会計士試験での慶応義塾出身者の合格率は群を抜いて高くなっておる由であり、公認会計士登録番号が五千番台の人だけで別表の如く百名を超える形になっており、誠に我々としても心強い限りである。

別表

塾出身の公認会計士登録番号別一覧表
(52/8 現在)

登録番号	人数	登録番号	人数
1 — 500	13名	3001 — 3500	12名
501 — 1000	10名	3501 — 4000	6名
1001 — 1500	13名	4001 — 4500	24名
1501 — 2000	14名	4501 — 5000	34名
2001 — 2500	16名	5001 — 5500	51名
2501 — 3000	20名	5501 — 5888	45名

II

日本公認会計士協会は、昭和52年は本部・東京会とも役員選挙の年に当り、いろいろ大変であった。

小生は、本年4月26日、久しぶりだったが地域部会の総会に出席したが、その席に会長候補者が来られ、短時間であったが演説をされて行った。その席で塾先輩の市川先生にお会いし、慶応義塾出身者として親密感を深めたが、それから約1ヶ月経過して東京会の定時総会があった。正直な所、お恥しい話だが今迄一回も出席した事がなかったが、心改めて右総会に出席した。慶応義塾出身の先輩格の方々に久しぶりでもお会い出来るかと思いつつ顔を出したが、この会で久方ぶりに中村忠先生にお会い出来た。この席にて慶応義塾出身の公認会計士のあつまりを何とかして作ってみたい旨をお話した所、中村忠先生は快く協力し合っこれをまとめてゆこうともられ、同席しておった宇野皓三先生にもこの件を伝えられた。

6月22日、本部の定時総会が新築された公認会計士会館で開かれたので、これにも出席した。この本部総会の時に再度中村、宇野両先生にお会い出来、早期に打合せを行う場を持つ事になり、中村先生の呼びかけにより、7月4日夕刻に上野の精養軒に次の5名が繰合せて顔を揃えた。

出席者氏名(敬称略 順不同)

中村忠、渡辺光栄、村山徳五郎、宇野皓三
西野清

慶応出身のこの種の会合は今迄も古くは故三辺先生を囲む形で何度かもたれており、小生も昭和31年度三次試験に合格した当初は何回か出席させて戴いた記憶があり、大先輩の高田栄先生、本間満先生、乗田菊五郎先生、高森龍男先生、石川敬一先生等々の諸先生方が中村、渡辺両先生と共に思い出されまして感を新たにした。

その後塾出身の会計士が数多くおられる監査法人中央会計事務所(霞が関ビル32階)会議室において、塾出身の代表社員中瀬宏通先生(公認会計士協会の前副会長)、村山徳五郎先生(公認会計士協会の現常務理事)の両先生の御厚意を賜って、7月18日、7月26日と再度の打合会をもち、名称も正式に公認会計士三田会の名で発足する段取りとし、次の18名の発起人が連名して9月12日創立総会招集の案内を出す事になった。

発起人氏名(敬称略 順不同)

田中 芳治、中瀬 宏通、中村 忠
藤井 博、西野 清、村山徳五郎
広田 潤、宇野 皓三、中嶋 敬雄
渡辺 光栄、西谷 誠一、徳江 陞
森重 栄、久末 弘中、松原 章隆
清水 俊行、野田 晃子、中村 寛治

創立総会を開くに先立ち、慶応義塾の塾監局にて塾員課長山本茂、課長代理中嶋孝雄両氏にお会いし、また商学部の教授で公認会計士でもある小生と同期生の峯村信吉先生とも何度かお打合せをする機会をもち、有益なる御助言を賜る事が出来

た。

当初三田会発足の日には石川忠雄塾長の御出席をお願いする予定であったが、時間切れとなった事は誠に残念であった。しかし、当日は御配慮により心よりの御祝電をいただきました。

電報本文は次の如くである。

「公認会計士三田会の創立総会を祝します。数ある三田会の中でも、三田法曹会と並んでユニークな御活躍をされるのではないかと思います。三田会と会員諸兄の御隆昌を心からお祈りします。」

Ⅲ

昨今法令の改正がさかんに行われ、連結財務諸表規則、中間財務諸表規則、半期報告書制度の改正が続けて発表され、更に先般の商法の改正に伴う業務の充実、拡充の中で、慶応義塾出身の会計士が大同団結する事が出来た事は誠に喜びにたえない。

発足間もないが、当三田会もいろいろと企画していくつかの会合をもちつつ、慶応義塾ともより近づき、また相互に相融合しあって今迄以上にそれなりの成果をあげるよう努めてゆきたい。お互いに一人一人が公認会計士三田会をもちあげる熱意をもとうではありませんか。

創立総会会場における 各位のご挨拶から

昭和5年経済
本 間 満

本日はこのような盛大な会合に出席できてまことに嬉しく思います。

同じ三田の学園に、年代を異にして学んだものが、同じ職業に従事しているもの同志として、このように一堂に会して親しくお目にかかる—このような企てとうになくはならぬことであつたと思います。

先ほど大変エラポレートした会則が発表されましたが、一般に三田会というのは、年度別とか、地域別とか、職域別とか、また法曹三田会のような職業別にあるようですが、このような各三田会は、メンバーはその特殊の性格に叶いさえすれば入会手続などなく、自然に成立する、いわば無結盟の結盟です。それでも随時本日のような会合が持たればお互いの親睦が増すことは確実であり、またそれで十分だといっても過言ではないと思います。

学術団体、職業団体としては、我々のように「一般に認められた……原則」とか「基準」とかを問題にしているものとしては、一元的に公認会計士協会を舞台としたい。「公認会計士三田会」党中党にならない方がよいと考えます。

三田出身の人がなるべく大勢協会の仕事の全分野で活動することは望ましいことである。しかしこの会としてはあくまで不即不離で、各個人はそれぞれの立場でバックアップするということにありたいと思います。

三田の学風こそ我々の業界をもっとシビルなものにし、将来有能な人材をドシドシ吸収する職業にするのに役立つことと思います。

昭和7年経済
乗 田 菊 五 郎

司会者の方から御指名にあずかりました、乗田菊五郎で御座います。昭和7年経済学部卒業、明治43年生れであります。明治生れの通弊で昔がたりがすきでありまして、しばらく皆様の御耳をけがします。

昔々その昔と云いまして、そう古いことではありません。昭和23年7月6日付官報号外で、法律第103号が公布されましたが、皆様よく御存知の通り、この法律によりまして、我国に初めて公認会計士が誕生することになったのであります。

第1回の特別試験が、昭和24年4月2日、3日に予備試験、同年5月28日、29日に本試験が施行され、第1回の合格者は60名位でしたが、さあ大変なことになりまして、有志の人々が大学別、地域別等のグループを作り、受験準備を始めました。塾出身の有志の人々も、準備しようとの話になり、当時千代田生命館5階に、三辺金蔵先生の部屋がありましたので、昭和23年8月頃からこの部屋に集まり、私が世話人となりまして、アメリカの試験問題を翻訳配付して練習をいたし、三辺先生の講義を拝聴いたしました。参集者は十名位でした。この時会名をつけようとの話がありまして三田会計学会とつけ、三辺先生を会長といたしまして、塾に届出をいたしました。この研究会の参集者は、特別試験終了時まで全員合格いたしました。

その後監査がいよいよ実施されることになりまして、証券取引法第193条の2に基づく監査は、昭和26年7月1日以後に始まる事業年度から開始ということになりました。ところが又々大さわぎになりまして、各大学別のグループが熾烈な運動を始め、各会社を歴訪いたしました。塾出身の公認会計士約10名も、昭和26年春頃から、当時塾の財務理事の神崎丈二先生から紹介状をいただきまして、各会社に働きかけることといたしました。この時公認会計士三田会を作り、私が世話人として塾に届出をいたしました。その後塾出身の公認会計士は、常時三田会計学会で会合し、三田会会合と兼ねておりましたが、三辺先生の御死去によりまして、三田会計学会は自然消滅となりました。

その後公認会計士、計理士、税理士を一丸として、三田会計人連盟を作るとの案内がありました。最近はあまりききません。

今回中瀬宏通さん、村山徳五郎さん、その他の人々が発起人になられまして、公認会計士三田会が改めて出来ますことは、非常に結構なことでありまして、過去の諸々の会は発展的解消をして、

今回の公認会計士三田会に、全幅の協力をおしまないものであり、その発展を祈念いたします。本日の創立総会は発起人の方々の努力によりまして、かくも盛大な会合になりましたことに感謝いたします。

この会をますます発展させるためには、今後世話人の方々に、非常な御苦勞をかけることとなりますが、宜敷く御願いたします。

昭和13年経済

藤井博

10年間くらいとだえていた、三田会計士会が、今有志の手で公認会計士三田会として再会される運びとなり、本日盛大な宴をもよおす事になりましたのは洵に慶賀の至りであります。思い起せば終戦後暫くして、三辺金蔵先生を囲んで、我々三田出身の公認会計士数名が、千代田生命館の一室を借りて、毎週PatonのAdvanced Accountingを研究し合っておりました。折りしも公認会計士監査が我が国で始めて実施されることとなったばかりですから、他校出身の公認会計士の先生のお多くは、監査先の獲得に狂奔し、会社廻りに懸命な時代でした。

当時の我が国の財界には、まだ塾の先輩が数多く、有力企業への影響力はかなりなものが残っていましたが、三田会計士会の者が世間なみの運動を展開しておれば、圧倒的な数の監査会社を受け持つことになったのでありましようが、三辺先生は公認会計士が監査をさせて貰うために頼んで歩くなど、もっての外品の品位失墜行為だということでお許しにならない。さて制度監査が始まってみると、も早や大部分の会社は監査契約の内定をしておいており、我々の這入り込む余地がほとんどなくなっていることがわかりました。さすがの三辺先生も慌ててあちこちに紹介状を書いて下さったりしましたがすべてあとの祭りでした。

しかし、誰もこんなことで三辺先生をうらんだり
は致しませんでした。我々は先生からは、簿記
の技術や、世渡りの術などは汲み取れなかったと
しても、慶応義塾の魂を植えつけて下さったこと
を何よりも有難く思っております。

先生がお亡くなりになる前の最後の三田会計士
会のあつまりで、先生は「日本の公認会計士制度
が確立するまでにはまだまだ何十年もかかること
だろう。君達は、後輩のためにその次の路を切り
開いてゆくことが役目である。君達が死んだ時は
エンマ大王の顔前を大手を振って『われは公認会
計士で御座候』と大音声でまかり通れ」と何度と
なくおっしゃいましたが、どういうわけかこの言
葉が私の耳にこびりついて離れません。

とかく、目前の経済的利益に促われて、右往左
往し勝ちな現世で、自己の職業に最高の誇りを抱
き、独立自尊、清廉天命を完うして、後嗣への道
を開くこと、これが福沢先生のお教えでもあろう
かと存じます。人間一つの使命感を抱いて生きて
ゆくことは極めて有意義でございましょう。公認
会計士三田会は、諸先輩方の精神を受け継ぎ受け
継ぎ、更に錬磨発展されるよう祈ります。

昭和34年経済

森 重 栄

公認会計士三田会が発足し、本日百名近くの方
員の方々にお集りいただいて創立総会が開かれま
したことはまことに喜ばしいこととございます。
設立趣意書にも書かれておりますように、同じ慶
応義塾に学び公認会計士として職業を同じくする
者が相互の親睦を図りながら業務上の情報を交換
し、各種の調査研究を行うための組織が生れ、若
い世代の方から長老の大先生まで巾広い年令層の
会員が加入されましたことは大変心強いことだ
と思えます。先程の長老の先生のお言葉によります
と、一部の方々の間で過去においてもこのような

会が発足したとのことですが、どのような理由か
その後大きな発展はなかった模様です。今日の公
認会計士三田会は、慶応義塾に学んだ公認会計士
会計士補の方なら誰でも加入出来る解放的な会
であり、すでに二百名近くの方々が加入されていま
す。最近是我が慶応義塾から多数の合格者が生れ
ておりますので、これら若い年代の会員の意見や
業績が会の運営に取り入れられることになりまし
よう。

会則の内容については先程代表の村山先生から
御説明があり、本日の総会で承認され、会は正式
に発足致しました。今後会の運営をどのように行
って、これを発展させて行くか、その方法は今日
の総会の親睦の雰囲気から生れると思えます。こ
れから具体的な事業内容等が決定されるわけです
が、折角生れた会を立派に育てて行くために多く
の方々の会に対する積極的な御支援が期待されま
す。私自身も中年と言われる年代になりましたが、
世話人の一人として出来るだけのお手伝いを致し
たいと考えている次第でございます。

昭和46年商学部

佐 竹 正 幸

私は、昭和52年第1回の三次試験に合格したば
かりの新人です。

私が士補会の幹事をしていた時に、士補の塾員
数名と三田会の結成を目録でみてはどうかとい
った話も出たことがあります。他の大学ではそう
いった会があるのに、三田会がないのはどうい
うことかといった疑問は、塾員誰しもが感じていた
ことのように思います。

今回の結成の動機は、士補の就職難が予想され
ることから、その相談や斡旋を図ることが必要で
あるということだとうかがいました。世話人の方
方は、当面この問題に取り組み、会報が出る頃
には一応の結果も出ていることと思えます。

しかしながら三田会の能力にもおのずと限界があり、また、最も大切なこの会の目的は、会員相互の親睦を図ることであると思います。したがって、その他の目的が十分に達成されなかったからといって、本会結成の意味が云々と考える必要はなく、気張らずに、何をやるのかわからない会であって、年に一回以上、会員が顔を合わせる場をつくる、その事に本会の最大の意義を求めべきであると考えている次第です。

今後は、塾員の全員加入、総会への出席率の向上等が最大の課題となるのではないのでしょうか。

昭和47年商学部

会計士補 落合 孝彰

公認会計士三田会の創立総会に出席し、塾出身の会計士が多いことに驚くとともに、いかにこの組織が待望されていたか思い知りました。公認会計士制度創世期を経験された諸先輩は、総会の盛大さにある種の感慨を禁じえなかったものと思います。

私は常々、他大学出身者はそれぞれ組織をもっているのになぜ塾出身者には組織がないのか不思議に思っていました。結束力がないのか、それとも必要がないのか。しかしながら、このような思いは創立総会における多数の出席者によって、ひとつに打ち砕かれました。

公認会計士三田会は、「相互の親睦を図り、業務に資する調査研究を行い、業務情報の交換を円滑にする等、斯道の発展に寄与」するために設立されました。私は相互の親睦こそ会のカナメと思っております。といいますのは、協会も調査研究等を専門的に行なっています。公認会計士三田会が協会と異なるところは塾出身者の集まりということであり、それだけでお互いに、先輩も後輩も親近感を持って接することが出来るところにあると思います。専門的知識や経験も会計士には必要

ですが、諸先輩の人柄、ひととなりによりに直接し何かを得ること、これも私達には必要なことと思われま。会にはその土壤があると考えております。そのためには、先輩も後輩も分け隔てなく、自由に話ができる会であらねばならないし、そのような雰囲気を作っていかねばならないと思います。自由にいろいろな人と話が出来れば、業界情報の交換等も出来るでしょう。

いろいろな人といろいろな話を自由に出来る会、そのような公認会計士三田会を創り育て、後輩に橋渡しをする、それが私達の役目と思っています。

公認会計士三田会発会式から — 会場 記 —

宇野 皓三

9月12日、厳しい残暑も薄暮とともに聊かの衰えを見せはじめ頃、日生会館において、公認会計士三田会の創立総会が開催された。集う塾員は約100名。年令層も新進の会計士補から斯界の大御所まで、2名の女性を含めて何れも我国公認会計士業界の第一線で活躍中の錚々たる顔触れである。

中村忠会員から、開会の辞に併せて本会創立の趣旨とこれまでの経過説明があり、世話人の選出が拍手をもって可決された。次いで、会則案についての骨子説明が村山徳五郎会員より行われ、満場異議なく原案通り承認された。これをもって創立総会としての議事は恙なく終了し、直ちに懇親パーティに入った。

まず、石川忠雄慶応義塾々長から、公認会計士三田会の将来に期待する旨のご懇篤な祝電の披露があり、田中芳治会員の発声によって、本会の創立を祝しグラスを乾した。

旧知の会員はもとより初対面の会員も終始和やかに談笑し、曾て三田山上に青雲の志を同じくし

た心の拡りは、大きな賑らみをもって会場に溢れるようであった。この間、乗田菊五郎、藤井博、中瀬宏通、森重栄等の各会員から、それぞれの時代を通じての希望や感想を含めてのスピーチがあり、宴も佳境に入った頃誰からともなく応援歌をとの聲が高まり、全員肩を組み「若き血」そして「丘の上」の大合唱にと集う会員は年令を超えて一つに駆け合う思いに包まれていた。

本間満会員の教示溢れる閉会の辞をもって盛会裡に終了した。

願て、本会が多数塾員のご賛同を得て発足し得たのは、それだけの潜在的な要望、特に若手会員にその大なるものがあったからに他ならないと痛感した。併せて、この創立総会の開催に至るまでに払われた発起人各位、並びに若い会員のご尽力に深甚なる謝意を表する次第である。

「塾」1977年No.6から転載 公認会計士三田会の誕生

— 三田の仲間 —

村山 徳五郎

去る9月12日、公認会計士三田会が、東京日比谷の日本生命ビルで誕生いたしました。この創立総会に集ったのは、塾員たる公認会計士68名、会計士補25名、合計93名。準備に日が浅いにしては沢山お集まりいただけたと、それから思いなしか、皆さんこういう会の発足を待ち望んでいらしたようにうけとれて、関係者一同ほっとしました。なお、ただいま現在、入会者は公認会計士140名、会計士補89名、合計229名に達しております。

公認会計士制度も昭和24年の10月にわが国ではじめての公認会計士が生まれて以来30年近くなり、その数も公認会計士五千四百、士補二千名の多きをかぞえるにいたっております。そのなかで、義塾出身者は、正確にはつかめておりませんが、公認会計士がおよそ270名、士補は230名ほどの

ぼるとされております。これはある意味で一大勢力、もしかすると数の上で全国大学中一番になりかかっているもようでもあります。

それにもかかわらず、不思議に会らしい会の活動は絶えていて見られませんでした。他校には、いくつもその例があります。早稲田に稲門会計士会というものがあります。東大にも一橋にもあります。中央、明治などはむろんのことです。ですから、こんなにも数の多くなったわが三田の仲間、この種の会がなかったのは、今となれば不思議というほかありません。

しかし、これを書きながら想い起しますと、かつて三田出身の会計士の会が全くなかったわけではありません。不確かな記憶ですが、わたくしも、試験が通った後か前かわからないくらい若い時分、三辺金蔵先生を中心とするまじめな研究会があって、どなたかに勧められてそこに一度か二度顔を出させていただいたような覚えがあります。その頃は、塾出身の若い者の数が少なく（というより、むしろ珍しく）つまり、大先輩ばかりなので、おそれをなして足が遠のいたような気がします。それから、今から多分、十年くらい前、渡辺光栄さんの努力で作られた会もありました。これにも一度か二度出席した記憶がありますが、そのうち、何となく沙汰がなくなりました。どうも、他校にくらべてお互い同志、何となく気脈は通じあっても、形式ばって集ったりするのは不得手な者が多いらしく、何となくしまらないかたちで今日にいたったのが実情と申してさしつかえないでしょう。

しかし、状況は近年いちじるしく変りました。塾出身の会計士補の数にご注目ください。前から塾員あるいは塾生の合格率の高いことしばしば耳にしておりましたが、この頃では、二次試験の合格者数も、出身校別に見るとトップの座を占めることが少なくないそうであります。現に今年の試験でも合格者総数425名のうち、塾出身者は50名

を超えるだろうといわれております。また、わたくしは、昭和30年卒、年齢40の半ばにさしかかりましたが、この年齢はおおむね公認会計士の平均年齢にあたります。けれども、三田の仲間のなかでは、上から20%ぐらいのところに位置しており、早くも先輩とよんでくださるかたの数の方が、ずっと多くなりました。こんなことを書くのは、もちろんそれを威張ろうというのが本意でなく、いたいことは、わたくしどもの業界での三田の仲間では、若い人がどんどん増え、めきめき力をつけ、ここだけはいまま高度成長の過程を辿りつつあるという現状についてであります。

この度の会は、先輩の中村忠さんが言い出されて推進されたものですが、つねにわたくしどもの念頭にあったのは、右に記したような現在の状況

であります。この会の誕生は、少しばかり年配の仲間が企てましたが、それはいわばウツワをつくったところまでで、この会の将来は、数の上でも大多数を構成する30代、20代の仲間、それにこれらの新たな仲間が、考えて創り出すべきものといえましょう。

公認会計士の、ことに監査の仕事にとっていちばん肝要なことは、実は、独立の精神であります。アメリカなどで、監査人をわざわざインデペンデント・オウディター（またはアカウンタント）と呼ぶのは、故ないことではありません。独立の精神は、申すまでもなく、三田に学んだわれらの独壇場であります。わたくしは、わが業界で、われらの仲間が人一倍力を発揮できることを信じて疑いません。



Victor

■テレビ放送やレコード、録画(録音)物などから録画(録音)したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

VHS このビデオには、このマークのついたビデオテープ以外は使用できません。



たっぷり 2時間 鮮やか録画

HR-3300... ¥256,000 ビデオタイマー RT-3300... ¥10,000(別売り)

- 鮮明な映像、美しい音質、2時間録画
- どんなテレビにも接続でき、裏番組録画、タイマー(別売り)で留守番録画が可能
- 置く場所を選ばない小型設計●維持費が少なくてすむ35Wの低消費電力●簡単な操作と豊富な機能(ポーズ機構、アフレコ機能、スリープ機構、サーチ機構、オートシャットオフ機構、50Hz・60Hz共用電源など)

ビデオカセットテープ.....2時間用(T-120E) ¥4,800 / 1時間用(T-60E) ¥3,500 / 30分用(T-30) ¥2,800
 このほか.....2時間用(T-120) ¥6,000 / 1時間用(T-60) ¥4,000のデラックスタイプもあります。
 ●便利なローン・システムをご利用ください。

世界にはばたく **VHS** **ビクタービデオカセット** **VHS**

伊勢丹 クローバーサークル



ご家族やお友達と参加して、
毎日の暮らしに、「ゆとり」と「ふくらみ」をお持ちになりませんか。主な内容は、趣味の教室、スポーツ教室、観劇会、特別セールへのご招待などです。

〈システムと会費〉

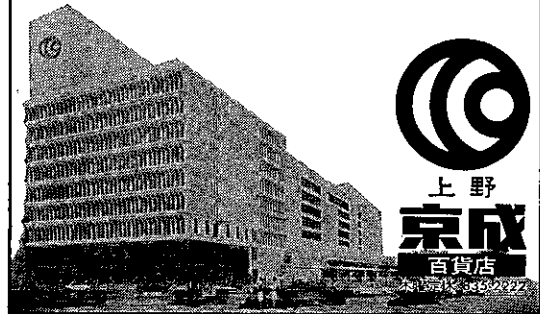
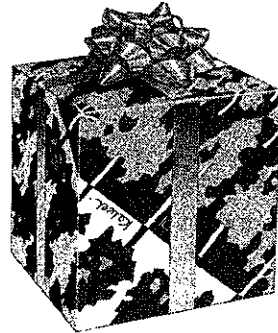
ご入会の方は、毎月2,000円を1年間お積立いただき、伊勢丹のお買物券で、全額お返しいたします。

〈お申し込み場所〉

- 新宿店新館8階＝クローバーサークル受付(354-5801)
- 立川店＝クローバーサークル受付(0425-25-1111)
- 松戸店＝クローバーサークル受付(0473-64-1111)



〈森の包み紙〉の贈りもの



編集後記

公認会計士三田会が発足し、会報第一号を会員諸兄にお届けすることになった。会の設立目的である会員相互の親睦、業務情報の交換のために、会報の果たす役目はきわめて重要である。そのためにも本号は創刊号に相応しい立派な内容のものにしたいと念じ、巻頭に塾長の御挨拶をいただいた。以下御覧のように主として会の設立に当たっていろいろとお骨折りいただいた方々に、会の発足の由来や将来への展望、会のあり方に対する希望、また創立総会の会場の模様等についての記事をいただいた。何分創立間もないことでもあり、編集の不馴れのために十分な内容のものとはならなかった点は御寛容をいただきたい。

なお今後は、会の運営に対する積極的な御意見、

会員各位の研究発表、会員相互の情報の交換等をお寄せいただいて、これを会報の上で取上げて行き、会報の充実を通じてよりよい会の運営をはかりたいと考えているので、どうか一人でも多くの方に会報造りに参加していただくようお願いする次第である。

(森重 栄 記)

昭和53年1月1日発行

編集人 森 重 栄

発行人 宇 野 皓 三

発行所 公認会計士三田会

東京都千代田区霞が関3-2-5

霞が関ビル第3202号室

電話 03(581)6281